

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24年 5月 3日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104310		
法人名	広島常光福社会		
事業所名	グループホームげんき中山		
所在地	広島市東区中山新町3丁目18-6 (電話) 082-508-4188		
自己評価作成日	平成24年1月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成24年2月14日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>グループホームげんき中山は、母体組織や関連の福祉・介護事業所との連携や家族・地域とのきめ細かい関係作りを心掛けて取り組んでいる。ホームのテラスから広島市の町並みや、遠くには海が見えるといった自然のなかで、地域交流や月に一度は季節に合った行事を行い、他者とのふれあいを通じてその人がいつまでもその人らしい生活を送って頂けるよう支援している。日常生活では食事作りや洗濯、散歩、体操など個々の負担にならない程度に趣味や役割を一緒に楽しむように支援している。また、職員の知識・技術向上の取り組みとして、施設内での毎月の勉強会、法人外の研修参加などを行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームげんき中山（以下、ホーム）は、社会福祉法人を母体とし、地域に根ざした福祉サービスを総合的に提供されています。 ホームは、家庭的な環境の中で笑い声の絶えない暮らしの支援を提供し、入居者が持つ能力の維持と発揮に努めておられます。気分転換と軽い運動を兼ねた外出や、介護予防体操、祭り、日帰り旅行などを通じて地域住民と楽しく交流を図り、暮らしのメリハリにも繋げておられます。 災害時に備えて、地域住民と一緒に考え話し合う機会を持ち合同訓練を実施するなど、地域との協力関係づくりに努力されています。 法人では、さまざまな形態のサービス事業所で経験を積んだり研修を充実させたりして、職員のスキルアップに取り組まれています。多くの経験を蓄えた管理者を中心に、ホームでは入居者主体の支援に努めておられます。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営（東ユニット）					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員会議にて意識を統一し、理念の実践に向けて日々の業務に取り組んでいる。また、毎日朝礼で理念を唱和し、意識付けを行っている。	ホーム独自に「明るく、楽しく、健やかに」という理念を掲げ、入居者の笑顔に繋がる支援をめざしておられます。また、毎日唱和することで、理念に立ち返ることの意義を確認し合い、職員が共有できるよう努められています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事、公民館行事、町内会活動にできるだけ参加し、入居者と一緒に交流を深めている。また年1回、当ホーム主催の地域ふれあい夏祭りを実施し、地域交流に努めている。	町内会に加入し、町内清掃や祭りなどに参加されています。入居者は、地域包括支援センターが主催する介護予防の体操教室に参加し、地域住民と一緒に楽しむなど交流が図られています。広島市が開催する花火大会では、ホームから花火が見られることから、地域住民も鑑賞に来るなど交流が深められています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣の中学生の職場体験学習の受け入れを行い、ホームの役割、高齢者や認知症についての説明を行い、理解を深めるよう努めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居状況や行事報告、ホームでの取り組み状況等を報告し、構成員からの意見を参考にして、サービスの向上に活かすようにしている。	運営推進会議には、家族や地域住民の参加が得られており、意見や要望などを直接聞く機会としても活用されています。ホームの課題としていた災害時の協力体制については、地域と合同訓練を実施することや、災害時での救助方法や備蓄について参加者から意見が出されるなど、地域との協力関係を築き始めておられます。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	用件がある時は、直接出向いたり、電話連絡するようにしている。	地域包括支援センターとは、運営推進会議の出席もあり、意見交換や必要な助言をもらうなど協力関係が築かれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>ホーム内では、自由に過ごして頂いているが、安全の為、施設内側からスイッチを押さなければ開かない仕組みになっている。利用者が屋外に出る事を希望すれば、可能な限り付き添うようにしている。また、勉強会を行う事で身体拘束についての理解を深めるよう、努めている。</p>	<p>ホームでは、身体拘束を行わない方針を掲げ、研修で職員への意識の徹底を図られています。広めの庭やベランダは、入居者が自由に出入りできます。また、玄関ホールには、テーブルと椅子が置かれています。玄関が施錠されていても閉塞感なく暮らせるよう工夫されています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待に関する研修に参加後勉強会を開き、他職員への伝達を行い、虐待防止に努めている。また利用者への接し方、話し方についてフロア一会議で話し合い、よりよいケアが行えるよう努めている。傷、皮下出血等発見時は報告書を提出し、カンファレンスを行って再発防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要な人には活用できるよう支援していく。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居契約時、必ず本人や家族に口頭、書類にて十分な説明を行い、同意を得るようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関内に意見箱を設置し、自由に記入できるようにしている。利用者や家族からの苦情等があった場合は、職員に伝達し、早急に対応、解決するように努めている。</p>	<p>家族会を年3回開き、家族との交流を通して意見が言いやすい環境を整えられています。家族からは、緊急時の連絡対応や家族同伴の日帰り旅行などの意見や提案があり、ホームでは可能な限り対応できるよう取り組まれています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回全職員が参加する会議と、フロア職員のみが参加する会議を開き、職員の意見をもとに入居者への対応、業務内容の改善を行っている。</p>	<p>フロア会議を、職員が自由に意見交換できる機会の場として、業務改善にも活かされています。入居者ごとに対応マニュアルを作成し、それを基に職員が情報を共有しながら支援に活かすなど、職員の意見がサービスの運営に反映されています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>人事評価の概要や法人内での異動の希望を確認している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の育成段階に応じた指導や係りの割り当てを行っている。またその段階に応じた研修の参加の機会を設けている。月1回の勉強会は担当制にして行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>月に1回、同法人の地域密着施設と合同会議を開催し、情報交換をしており、他施設の良い所は取り入れるようにしている。また法人が開催する行事や親睦会の参加によって、職員同士が交流する機会を設けている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>不安なく落ち着いた生活が送れるよう、職員との信頼関係を構築し、希望・要望などを訴えやすい環境を作っている。また、他入居者との交流の場などでは、職員が間に入り、溶け込みやすい環境作りをいった面でも配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族には入居に至る経過や、ホームでの生活への要望、希望をよく聞き、不安のない生活が送れるよう信頼関係が築かれるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人、家族とよく相談し、必要とされるサービスに優先順位をつけ、暫定介護サービス計画の同意のもとで行なっている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>本人を入居者として携わるのではなく、共に生活をしていく者同士として接し、互いを支え合えるような関係を築いている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会、行事などで家族がホームに来られる際に、本人と定期的なふれあいをもってもらっている。また、本人の現状を家族に伝える事で情報交換をおこない共に支え合えるような関係を築いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>外出(ドライブ等)行事を通じて馴染みの場所へ出かける事で出来る限り不安を取り除けるよう、支援に努めている。また、家族との外出や外泊、面会に来てもらったり等協力してもらっている。</p>	<p>家族や知人、地域の顔見知りの住民など頻繁に訪問があり、入居者と楽しく会話されています。正月は家族と過ごしたり、得意な手芸を入居後も楽しむなど、これまでの人間関係や習慣が継続できるよう支援されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや家事、日常生活の中で他者と一緒に作業を行ったり、気の合う者同士で食事を行ったりと利用者同士の関係を深めている。また、会話では職員が間に入る事で打ち解けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約時に退居前後の事まで前もって説明し、退居前にも本人・家族からの相談に乗り、安心してサービスが利用できるように支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の日常生活の中での言動を観察し、本人の得意、苦手な分野を把握することで本人の思いに添った過ごしやすい環境づくりを支援している。	意思表示が難しい入居者には、しっかり向き合いながら話しかけ、思いを汲み取るよう心がけておられます。会話を交わす時には、一人ひとり目線を合わせ入居者のその時々状況や思いを大切にされた対応に努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に生活歴アンケート調査を行っている。また、基本情報や本人からは生活歴などを日頃の会話などから聞き出し把握に努めている。家族に対しても、必要に応じて生活歴を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケース記録やフロアー伝達ノート、フロアー会議を通じて現状把握するようにしている。また、随時職員間での情報交換を密にして把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人がより過ごしやすい環境作りに努め、カンファレンスは出来るだけ多くの職員が参加できる時間帯に行っている。また、1か月ごとにケアプランのモニタリングも行い評価を行っている。</p>	<p>3か月毎に計画の見直しが行われています。入居者が穏やかな1日を過ごせているか、状態の変化に対応できているかなどを踏まえて毎月モニタリングされています。入居者ごとに必要なサービスを盛り込んだ計画が作成できるよう取り組まれています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>記録や、職員間での情報の共有を行い、入居者のケアの見直し、改善点を職員間で検討する事で、入居者のケアに活かすよう努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>社会福祉法人が母体であり、法人の持つ多種にわたる事業、運営施設との協力関係を受けている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の公民館での活動参加、町内会活動には入居者と一緒に積極的に参加している。地域支援包括センターが行っている催し物にも参加している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>各協力病院があり、希望の病院や必要な医療が受けられるよう、日頃から連携を取りながら支援している。必要に応じて往診や入院の受け入れ体制を整えている。また、緊急時に受け入れてもらえる病院も把握している。</p>	<p>入居前までのかかりつけ医と協力医療機関で、適切な医療が受けられるよう支援されています。運営推進会議には、ホームの協力医療機関の医師の出席もあり、医療面で家族の相談を受けられたりもしています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>週1回、いくたに内科クリニックの訪問看護師に定期訪問してもらい、助言、指導を受けている。また、利用者の現状を伝える事で次回の受診時の参考に役立ててもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、家族とも連絡を行い、状態確認や退院後の支援方針について話し合うようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に重度化や終末期の方針について書面にて確認を受け共有している。また、家族に連絡を行い、状態を説明して家族と話し合っている。</p>	<p>重度化した場合や、緊急時の対応について入居時に説明されています。看取りの事例はありませんが、職員は研修などを通して方針に基づいた対応ができるよう取り組まれています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>事故発生時のマニュアルを作成しており、事務所内にいつでも目につくように掲示してある。また、定期的実践を取り入れた訓練の実施、緊急時の対応についての勉強会、指導などを行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防署、町内会の方と合同でホームでの災害を想定した訓練を行っている。また、運営推進会議で話し合い、町内会などの地域の方の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>ホームでは、地域との協力体制の強化について課題として取り組み、町内会との合同訓練が実践されています。運営推進会議で災害について議題にあげ、参加者と話し合いながら積極的に協力関係が築けるよう取り組まれています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人の性格を尊重し、思いや訴えに対して傾聴している。言葉や行動をそのまま受け入れる事で本人の誇りやプライバシーを損ねないような対応を取っている。また、羞恥心にも配慮した対応を心掛けている。	入居前の情報と日々の暮らしの中から得た情報をもとに、一人ひとりのその日の気持ちや状況を尊重した対応に心がけておられます。職員は「ちょっと待ってね」といった対応をせず、入居者に向き合った支援に努めておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	初めから職員が物事を決めるのではなく、本人の希望を表し易いよう声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常に優先順位を考え業務に取り組み入居者のペースを乱さないよう努めている。本人の希望があれば可能な限り実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日の衣類を職員と一緒に選んだり、外出時や行事の時はいつもと違った雰囲気や衣類を職員と一緒に選んでいる。又、お化粧をする事でその人らしくいられるよう支援している。月に1度訪問の理美容サービスがあり、本人、家族の希望に沿って利用してもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々に合った内容の食事準備、片づけを職員と一緒にやっている。入居者の意見や希望に応じお寿司、お好み焼の出前を取っている。又、季節感のある食事を心がけている。	食事は、毎食職員が調理し、嚥下の困難な入居者には、きざみ食やとろみ食など状態に合わせた食事を提供されています。正月のおせち、節分の鯛、クリスマスケーキやシチューなどの行事食も作られています。入居者は、配膳・下膳・後片付けなどできることを手伝われています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その方の体調や状態にあった食事量、食事形態で食事を提供している。自力摂取の難しい方は介助を行い、栄養、水分量を確保している。又、食事を摂る事が難し方は経腸栄養剤を摂取して頂く事で、栄養を確保できるよう支援している。食札を利用し、嗜好・食べ易さに配慮した食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行い、介助の必要な方は職員が対応する事で清潔保持に努めている。週に一度ボリデントを行い、義歯の清潔保持に努めている。又、月に2回、歯科往診に来て貰い、治療や口腔内のケアを行い、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要に応じて排泄表を作り、個々に合わせた排泄パターンでトイレの声掛けや誘導を行っている。トイレに行かれた際、必要な方には下着確認を行っている。本人に合ったパット・オムツ類、トイレ等排泄用具を日中と夜間で使い分ける事で自立支援を行っている。	入居者の排泄では、細かいところまで職員全員で情報を共有されています。声かけによるトイレ誘導や介助など、一人ひとりの状態に合わせてながら、排泄の自立に向けた支援に取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事に麦ご飯や乳製品、野菜を取り入れ工夫をしている。毎朝、ラジオ体操など程度の運動を行い自然な便意があるよう支援している。排便困難2日目、3日目には個々の状態に合った下剤を服用する事で便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴を希望される方や前回入浴を行っていない方などに声掛けし一人ひとりのタイミングに合わせて行っている。入浴を好まれない方は本人の気分を損なわないよう注意し声掛けを行っている。又、羞恥心に配慮し男女職員が入れ替わるなどの対応を行っている。	入浴は、入居者の希望に合わせて毎日入れるよう支援されています。風呂を好まない入居者には、声かけを中心に入りたくないような環境づくりを工夫し、清潔保持に取り組まれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中リハビリ体操やレクリエーションを通して、身体を動かした脳トレをしたり、食事当番、洗濯畳み等役割を持ってもらい、夜間良眠できるように支援している。夜間不眠時や日中疲れの見られる入居者には、日中居室で休んでもらうよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医の指示のもと、薬担当が中心となって内服薬、外用薬の管理を行っている。各個人ケースに処方箋を収め、いつでも見られるようにしている。薬の変更等あった際は処方箋や伝達ノートに記入し、全職員が同じ対応ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人の希望や出来る事をカンファレンスやフロア会議で検討し、無理負担のないよう役割分担をしている。また日々その人にあった楽しみや、やりたい事を支援している。嗜好品は希望があれば持ち込み可能で、管理が必要な方は、本人・家族の同意のもと預かり管理している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は、外気浴や園内周辺を職員と一緒に散歩している。花見・日帰り旅行・ドライブ・地域との交流会など入居者の希望にそって支援している。希望があれば、施設の買物の際、スーパーへ一緒に出掛けている。家族の協力もあり、家族と一緒に外出、外泊もされている。	天気の良い日には、ホーム周辺を散歩しながら外の風に触れ、軽い運動を行い生活のリズムや気分転換に繋げておられます。日常的な買い物や、年1回日帰り旅行に出かけるなど、入居者のこれまでの習慣や外出する楽しみを尊重した支援が行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	普段は小口預金通帳で管理を行っている。自分で小銭を所持したい入居者の方は、家族の同意の上で行い、いつでも本人の希望、訴えに応じて使えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	いつでも家族の方と電話や手紙のやりとりが円滑に出来るよう支援しており、年始には家族に年賀状を送っている。また携帯電話を所持している入居者の方もおり、操作等分からない時はその都度支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭的な作りになっており、利用者にとって過ごしやすい環境になっている。玄関や居間は季節に応じて飾り付けをし、また日常生活の様子を写真に撮って掲示している。	リビングは、季節に合わせた飾り付けがされており、訪問日には雛壇が飾られていました。また、観葉植物や手作りの日めくり曆が飾られ家庭的で温かい空間となっています。懐かしい音楽が静かに流れ、ソファでテレビ観賞や歌を唄う入居者、お茶を楽しむ入居者などゆっくりと自由に過ごすことができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事はリビングで気の合った利用者同士でできるよう、座席の組み合わせには配慮している。リビングにはテレビ・ソファがあり、またリビングからテラスには自由に入出でき、思い思いに過ごせる環境になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	持ち込みは原則自由になっている。写真や花などが飾られ、住み慣れた環境になっている。	居室には、使い馴れた家具やお供えを習慣にしている入居者が仏壇を持ち込まれています。また、笑顔いっぱいの子孫との写真を飾るなど、それぞれに居心地良く過ごせるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者の居室には各個人の名前が表示され、トイレ、浴室も大きく表示されている。また操作方法なども明記されている。フロア内に一人ひとりの役割を掲示している。		

V アウトカム項目（東ユニット）			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営（西ユニット）					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の朝礼で、理念を唱和することにより、職員全員が常に理念を念頭に入れながら、業務に取り組むよう心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	積極的に地域行事、公民館行事、町内会行事に参加して交流を深めている。年1回、当ホームの行事で夏祭りを開催し、地域の住民との交流を持つ機会を設けている。また、2ヵ月毎に運営推進会議を開催している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近隣の中学生の職場体験の学習の受け入れを行い、ホームの役割、高齢者や認知症についての説明を行い、理解を深めるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居状況、行事報告、ホームでの取り組み状況等を報告し、参加した構成員からの意見を聞き、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	用件がある場合、直接で出向いたり、電話連絡するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>テラスや畑等、ホームの敷地内は自由に出入りが行えるようになっているが、玄関は安全の為、施設内側からスイッチを押さなければ開かない仕組みになっている。利用者が屋外に出ることを希望する場合は、可能な限り付き添うようにし、身体拘束をしないよう努めている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>勉強会等で虐待について学ぶ機会を設けたり、虐待に関する研修があれば、職員を参加させ学ぶ機会を設けるようにし、虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要な人には活用できるよう支援していく。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居契約時、必ず本人や家族に口頭、書類にて十分な説明を行い、同意を得るようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関内に意見箱を設置し、自由に記入できるようにしている。利用者や家族からの苦情等があった場合は、職員に伝達し、早急に対応、解決するように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員からの意見は積極的に聞くようにし、それらをもとに業務内容等の改善を行っている。月1回、フロアー会議を開催し、意見や提案を聞き、話し合いの機会を設けている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>人事評価の概要や法人内での異動の希望を確認している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の育成段階に応じた指導や係りの割り当てを行っている。またその段階に応じた研修への参加の機会を設けている。月1回の勉強会では、担当制にして行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>定期的に同法人の地域密着型施設と合同会議を開催し、情報交換をしており、他施設の良い所は取り入れるようにしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>本人から今までの生活状況や環境希望、要望を聞き、安心して生活できるよう配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族には入居に至る経過やホームでの生活への希望、要望をよく聞き、信頼関係が築かれるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人、家族とよく相談し、必要とされるサービスに優先順位をつけ、暫定介護サービス計画の同意のもとで行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>本人と職員と一緒に生活しているということを中心にしながら、料理、掃除など家庭で行っていたことをできる限り一緒に行う中で、楽しみ、支え合う関係を築くように努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>本人と家族との関係や現在までの背景の理解に努め、共有した中で支援するよう心掛けている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族の協力による外泊や面会、ホームではドライブや行事など、できる範囲で取り入れ支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	利用者同士の関係を配慮しながら、食事の席を決めている。日常生活やレクリエーションで皆と関わり合える機会を作り、利用者同士で助け合っている時は見守るようにしている。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	入居契約時に退居後のことまで前もって説明し、安心してサービスが利用できるように支援している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	日頃の会話の中や行動を観察し、得意な分野の把握に努め、得意な分野は積極的に参加を促している。		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	入居時に生活歴アンケートを行っている。又、本人からは生活歴などを日頃の会話の中から聞き出し、把握に努めている。又、必要に応じて家族から生活歴などを聞くようにしている。		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	ケア記録やフロアー伝達ノート、フロアー会議を通じて、現状の把握をするようにしている。又、職員同士で情報交換を密にして把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>カンファレンスではできるだけ多くの職員が参加できる時間帯に行い、一人一人の意見を大切に、ケアへ反映できるようにしている。また、本人、家族からの要望を取り入れた介護計画を作成するように心がけている。毎月、月初めにケース担当者がプランに対してモニタリングを行っている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>記録は誰が見てもその状況が分かるように、分かりやすい言葉で記入するようにしている。また、ケース記録や伝達ノート、職員の報告・連絡を行うことで情報を共有し、入居者のケアの見直し、改善に活かすよう努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>社会福祉法人が母体であり、法人の持つ多種にわたる事業、運営施設との協力関係を受けている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の公民館での活動参加、町内会のお祭り、清掃活動には、入居者と一緒に積極的に参加している。また、地域包括支援センターが主催の催しにも参加している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>各種の協力病院があり、希望の病院や必要な医療が受けれるよう、日頃から連携を取りながら支援している。必要に応じて往診や入院の受け入れ体制を整えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	毎週1回、かかりつけ病院の訪問看護師に定期訪問してもらっており、その際、看護師から助言、指導を受けている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時には、家族との連絡を行い、状態確認や退院後の支援方針について話し合うようにしている。日頃より、かかりつけ病院と連携を取りながら関係づくりを行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	入居時に重度化や終末期について、書面にて確認を受け共有している。また、家族に連絡を行い、状態を説明して、家族と話し合っている。		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	事故発生時や緊急時のマニュアルを作成しており、事務所内にいつでも目につくように掲示している。また、定期的実践を取り入れた訓練の実施、緊急時の対応についての勉強会、指導などを行っている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年2回、日中・夜間を想定した防災訓練を行っている。夜間想定時、消防署・地域住民を交えて合同の消防訓練を行ったり、運営推進会議にて、地域の人々の協力を得られるように働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	理解しやすい言葉で対応するように心掛けている。本人の思いや訴えに対して話を聞き、本人の思っている現実を受容し、否定しないような返答をするよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	理解しやすい言葉かけを行い、話を聞くようにしている。また、自己決定が難しい人には選択の中から決めてもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の状態や希望に沿って、ゆっくりとした生活時間の中で、食事・入浴・日常生活全般を支援するように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一緒に服を選んだり、外出時は外出用のおしゃれ着を選んだり、その場に応じた服装の選択を行っている。理美容は契約時に出張サービスを利用するか聞いて行っている。月1回、理美容院を招き、本人や家族の希望に沿った利用をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備、片付けは本人の能力に応じ、食事当番を設けている。食事当番表を作成し、分かりやすくしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	バランスの良い食事を提供するようにしている。特別食(カロリー制限、減塩食、糖尿食)が必要な方にも配慮した食事を提供している。必要に応じて食べやすい形態で提供できるよう配慮している。食事摂取量を記録しており、摂取量の把握や摂取量の変化に注意しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に歯磨きを行ってもらうよう声掛けを行い、自ら行える範囲は行ってもらい、不十分な所は介助を行い清潔を保持している。毎週日曜日は、入れ歯洗浄剤を使用している。また、月2回、歯科往診があり、家族の了解のもと希望者や治療の必要な方は、口腔内の診断を行ってもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要に応じて、排泄管理表を使用し、随時トイレ誘導を行っている。また、日中と夜間使用する排泄用具を変更したり、パットも3種類準備し、個々に合った使用をしている。状態に変化があれば、排泄担当者が中心となり、すぐに話し合い、対応方法の検討を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日頃の食事で、食物繊維を多く含んだ物や、おやつで牛乳を提供したりし、工夫をしている。入浴後には水分補給に努め、ラジオ体操やリハビリ体操、テラスへの散歩を取り入れ、運動の機会が定期的に持てるよう働きかけている。また、必要に応じて下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	毎日、入浴可能な状態で、本人の状態に配慮しながら入浴の誘導を行っている。個人によって、回数や、入浴時間が異なるのを、本人のペースでの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の状態に配慮した上で、日中にレクや日常生活の支援、活動の場を設ける事で、心地良く眠れる環境作りを心掛けている。個人の馴染みの布団や枕を使用している入居者もいる。エアコンで居室内の温度調整をし、快適な睡眠ができるよう配慮している。また、眠前薬の服用時間にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医の指示を受け、薬担当者が中心となり内服薬、外用薬を把握し管理しており、職員全員が同じ支援ができるようにしている。処方箋を個人ケースに綴じており、いつでも確認が可能である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人の希望や出来る事を見つけ、フロア会議やカンファレンスで検討し、個々に合った役割分担を提供している。また楽しんで役割を行う事が出来るよう、体調や気分を配慮し提供するように努めている。嗜好品も希望があれば持ち込み自由であるが、管理が必要な方には本人、家族の同意のもと預かり管理している。入居時に生活歴アンケートを実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	必要に応じて外出している。ただ全員参加が難しいので、希望者や順番に出掛けている。施設の買物の際は、財布を自分で管理している利用者と共にスーパーに出掛けたりしている。日常生活の中でも外気浴や散歩の時間を設け、状態によって行っている。又、家族の協力もあり、家族と一緒に外出・外泊されている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には小口預金通帳で管理するが、自分で小銭を所持したい人には家族の同意の上で行っている。本人が欲しいものがある場合は、一緒に買物に行ったり、希望のものを購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話、手紙は自由にやりとり可能で、必要に応じて支援している。電話は居室内で会話できるように子機を準備している。手紙は直接本人に渡し必要に応じて代読している。年始には家族にも年賀状を送っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	台所、洗濯場等も出入り自由である。季節感を大切にし、利用者と一緒に飾り付けを作っている。食事席も仲の良い利用者が座れるように配慮している。トイレでは入居者の水の流し忘れがあり、それに対して不快な気持ちになる入居者もいる。流し忘れに対して、職員が定期的に確認しているが、完全に防ぐ事が出来ていない。加湿器を設置したり、室温調整や細めに換気を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはテレビ、ソファを置き、玄関内にも椅子、テーブルを置きくつろげる空間作りをしている。気の合った利用者同士がお互いに居室を訪問する時もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	持ち込みは基本自由になっている。安全に考慮した上で自由にレイアウトしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の名前やトイレ、お風呂は大きく表示されている。利用者にとって不都合な事があればすぐに対応している。		

V アウトカム項目（西ユニット）			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームげんき中山

作成日 平成 24 年 5 月 20 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	25	施設内での決定事項が徹底されていない事で入居者や職員間の情報伝達で不都合が生じる事がある。	全職員で統一した介護が行えるように徹底していく。	統一したケア, 業務を行うことの必要性を再度徹底し, 理解できるよう指導, 改善していく。職員会議, マニュアル等活用し情報, 業務内容の共有化を図る。	6か月
2	27	記録の記入ミス, 記入漏れ等があり, 記録が不十分な点がある。	記入ミスや漏れをなくし十分な記録が行えるようにしていく。	記入時に内容確認, 点検・確認を行う。また, 漏れがあった場合は注意しあい記入追加, 訂正を速やかに行う。	12か月
3	34	入居者の急変時, 事故発生時の対応に不十分さがある。	入居者の急変時, 事故発生時の対応方法の徹底。	勉強会を行い, 徹底を図る。また, 対応の流れを貼り, 統一した対応が行えるようにしていく。	6か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。